講演者プロフィール　講演抄録

根木　昭

神戸大学大学院医学研究科外科系講座眼科学分野　教授

1975年　京都大学医学部卒業
1981年　スタンフォード大学医学部研究員
1989年　天理よろづ相談所病院眼科部長
1994年　熊本大学眼科教授
2000年　神戸大学眼科教授
2001年　神戸大学大学院医学研究科外科系講座眼科学分野　教授

『祝30回　－眼科診療30年の変遷と課題－』

淑瞳会創立３０周年，誠におめでとうございます。私も，眼科医になって37年ですが、この間、眼科診療は大きく発展しました。振り返ってみると20世紀は外科眼科の飛躍の時代でした。白内障手術は嚢内摘出術から嚢外摘出術をへて超音波乳化吸引術の時代に移り、日進月歩の勢いで技術改良がなされ学会でもビデオ講演やライブ手術が盛んでした。硝子体手術の進化も診療を一変させました。なかでも黄斑円孔が閉鎖したことは画期的で研修医時代からすると奇蹟ともいえます。Gassの観察力と病態の洞察力に感銘しました。21世紀になって外科眼科が成熟期を迎えると今度は内科眼科に新しい展開が訪れました。緑内障疫学調査結果や分子標的薬の登場も画期的でしたが、なんといっても光干渉断層計の登場は眼科学を一変させました。生体病理学とも言うべき組織切片が非侵襲的に短時間で得られる等という事は正に研修医時代から考えると奇跡的な事です。病態解明と眼科診療に革命的な展開をもたらし、さらなる発展が期待されています。

このような目覚ましい発展にもかかわらず、ここ数年眼科専門医指向者の数は減少しています。20年先の超高齢社会における眼科診療が危惧されます。日本眼科学会でも初期研修医や医学生を対象に啓発活動を開始していますが、ワークライフバランスから考えて眼科は女性医師にとって選択しやすい科であり淑瞳会の活動にも大いに期待しています。本講演ではこのような眼科診療の変遷と今後の課題について考えてみたいと思います。

講演者プロフィール　講演抄録

三村　治

兵庫医科大学眼科主任教授

1975年　大阪医科大学医学科卒業
　　兵庫医科大学病院研修医（眼科学）
1982年　兵庫医科大学大学院修了，医学博士号取得
1983年　兵庫医科大学眼科講師
1989年　兵庫医科大学眼科助教授
1995年　ドイツSaarland大学眼科客員教授（～1996年）
1998年　兵庫医科大学眼科主任教授

『神経眼科疾患もここまで治る！』

私が兵庫医大眼科に入局した1975年頃には神経眼科学は主に診断学であり，視神経疾患のイロハを教えていただいた井街教授が行われていた開頭手術やルンバールパンピングなどの神経眼科疾患への治療は極めて例外的なものであった．その後下奥教授から眼球運動障害の診療方法をご指導いただき，ようやく甲状腺眼症や眼運動神経麻痺の手術から新たな神経眼科疾患の治療に踏み出すことができた．本日の講演では，神経眼科の代表的な疾患と私たちが行っている治療法について，ビデオや画像をもとにわかりやすく解説する．

現在では，複視を主訴に受診し発症後6か月以上経過した患者にさまざまな手術を行うことにより約85%で正面視での複視を消失させることができる．また先天・後天眼振患者の手術に対する満足率も非常に高く，Duane症候群や外眼筋線維症，側方注視麻痺にも積極的に手術を行っている．さらにステロイド治療の離脱困難な重症筋無力症などの自己免疫疾患ではタクロリムスの内服療法が効果を上げている．

神経眼科疾患もここまで治る！

講演者プロフィール　講演抄録

栗本 康夫　神戸市立医療センター中央市民病院 眼科　先端医療センター病院 眼科

1986年　京都大学医学部卒業、京都大学眼科入局
1988年　京都大学大学院医学研究科博士課程
1992年　国立京都病院眼科医師
1993年　神戸市立中央市民病院眼科副医長
1997年　信州大学医学部眼科学教室講師
2000年　ハーバード大学博士研究員
2002年　信州大学医学部眼科学教室助教授（現 准教授）
2003年　神戸市立中央市民病院眼科部長代行
　　先端医療センター視覚機能再生研究チームディレクター（兼任）
　　京都大学医学部臨床助教授（兼任）
　　神戸大学医学部臨床助教授（現 准教授）（兼任）
2006年　神戸市立中央市民病院（現 神戸市立医療センター中央市民病院）眼科部長
　　京都大学医学部臨床教授（兼任）
2008年　先端医療センター病院眼科客員部長（兼任）
2010年　先端医療センター病院眼科統括部長（兼任）
　　理化学研究所神戸研究所客員研究員（兼任）

『眼軸長と緑内障 －短眼軸眼の緑内障・原発閉塞隅角緑内障－』

眼疾患の中には眼の大きさや形状が疾患の原因と密接に関わっているものがある。緑内障分野においては、近視、言い換えると眼軸が長い事が緑内障発症のリスクファクターである一方で、遠視・短眼軸眼は原発閉塞隅角緑内障のリスクファクターである。眼軸長は長くても短くても緑内障のリスクが高くなると言える。

本講演では、我が国における眼軸長と緑内障の関係について概観した上で、短眼軸眼がリスクファクターとなる原発閉塞隅角緑内障について、眼軸長と屈折をキーワードに病因と治療について考えたい。

演奏者プロフィール

栗本 康夫　piano

ピアノを、芹澤佳司、E.F.ザイラー、小島久里、荒金泰子各氏に師事。
斎藤雅広、J.デムス、J.ブロッホ、M.ルーウェ、J.ウェーバー、J.B.ヤング各氏にも指導を受ける。

京都大学在学中に京都大学音楽研究会を中心に演奏活動。
1984年、モーツァルト室内管弦楽団とベートーヴェンのピアノ協奏曲第5番「皇帝」を共演。
1992年、京都にてピアノソロリサイタル（芸術祭典・京、協賛）を開催。
産経、日経、毎日、読売新聞各紙にとりあげられ、ピアノ専門誌ムジカノーヴァの演奏会評で好評を博す。

医学部大学院卒業後はピアノを休止していたが、数年前より限定的に再開。

2009年、PTNAピアノコンクールグランミューズB2部門（40歳以上のアマチュア対象）全国優勝。
2011年、同A2部門（40歳以上のプロとアマチュア対象）全国優勝。

現在、ピアノは出勤前の早朝に毎日30～40分程度の練習をしている。

プログラム　**『ヨーロッパ、西から東へピアノ音楽の旅 ～スペイン・ドイツ=ハンガリー・ロシア～』**

エンリケ・グラナドス ：演奏会用アレグロ
フランツ・リスト ：イゾルデの愛の死（ワーグナー）S.447 R.280
セルゲイ・プロコフィエフ ：ピアノ・ソナタ　第3番　イ短調「古い手帳から」 作品28